

(5) 公共交通空白地

公共交通空白地の状況を見ると、北部の西之森三丁目や須成西、今西三丁目、平安、南部の緑や旭が該当する。一部、市街化区域を中心に人口の多い地域でも公共交通空白地があるが、公共交通の人口カバー率（総人口に対するバス停停留所300m圏、鉄道駅800m圏に住む人口の割合）は約92%である。



図 町内の公共交通空白地

2.4. その他交通の状況

(1) 町内・町外の移動状況

町内全体の交通分担率は、自動車の交通分担率が63.8%と高く、自動車が主な交通手段となっている。町内移動は、全体同様に自動車が最も多く、次いで徒歩、自転車の順に高くなっている。鉄道とバスの交通分担率が小さく、公共交通の利用は低くなっている。町外移動をみると、自動車の交通分担率が70.6%と最も高く、次いで鉄道が高くなっている。

また、町外の移動は蟹江町→名古屋市間の移動が多い。町外移動は自動車の分担率が高くなっているが、名古屋市、大治町では他の市町村と比較して、鉄道の分担率が高くなっている。

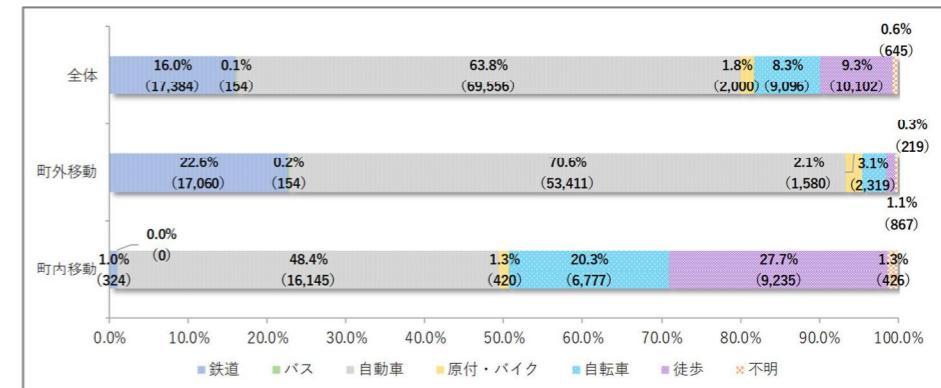


図 町内・町外移動の交通分担率

資料：第5回（平成23年度）中京都市圏パーソントリップ調査

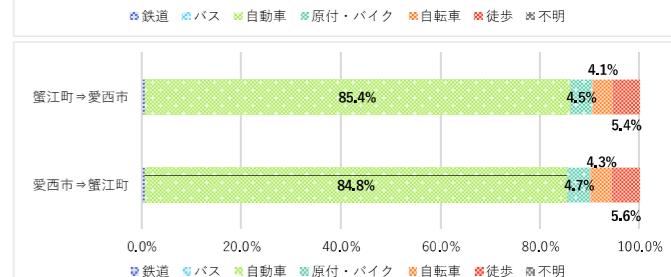
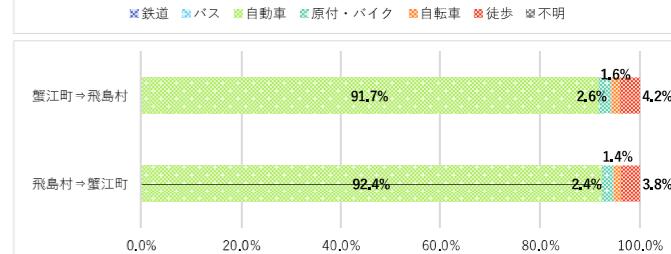
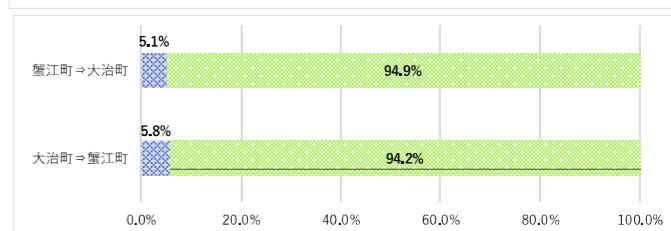
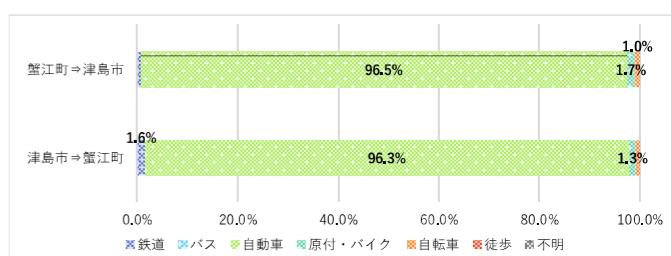
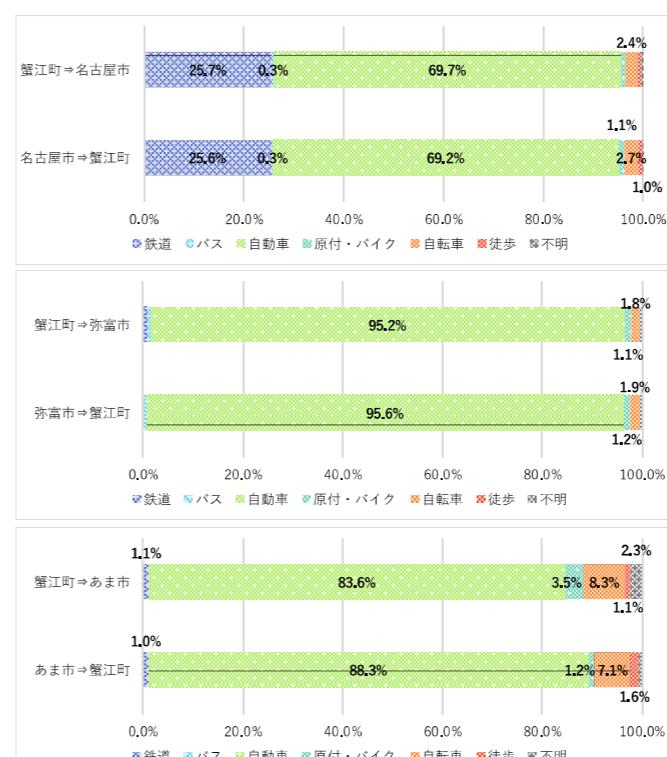


図 市町村間の交通分担率

資料：第5回（平成23年度）中京都市圏パーソントリップ調査